



第 29 号  
平成 30 年 3 月 10 日  
発行  
熊本市北区  
高平 2-20-35  
曹洞宗 浄国寺  
編集者

# 平成三十一年

# 春季彼岸会法要

## 春彼岸法要の御案内

この前、新年の挨拶をしてきたら、もう春の彼岸を迎える季節になりました。啓蟄も過ぎ、春めいてきたようです。今回の法話は山形県から出で頂くことになりました。三部(さんべ)老師は、曹洞宗教化研究所在籍中にボランティアとして



ボランティア活動で活躍されており、現在も、SVA(シヤンティ国際)

ボランティア協会 出版は曹洞宗ボランティアの副会長として活躍されています。布教師として、も全国を回られており、大本山永平寺の伝道部講師も務められていたそうです。私は直接お会いした事はありませんが、分かり易い形で、皆様の心と響く法話をして頂けると今から楽しみにしています。

## お由彼岸の来 4

三年前の案内状として出した通信(第二一号)一昨年の案内状(第二三三号)、昨年(第二六号)にお彼岸の由来について書きましたが、彼岸とは、

## 浄国寺春季彼岸会

日時 平成三十一年三月二十四日(日)

午前十一時より

春季彼岸壇信徒総供養

供養 了って法話

山形県最上郡 松林寺

三部 義道 老師 住職

※今回は山形より来て頂きました。簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい



こちら側の世界(今、生きていく世界)と現世(苦しみ)に満ちている此岸であるのに対しての向こう岸(彼岸)つまり煩悩や苦しみから解放された心静かな世界(仏の世界)を指しています。原語の音訳で言えば、彼岸は「ニルバーナ(音訳で涅槃)」、これに対して、此岸(こちら側)は「シャバ(音訳で娑婆、意味は忍土つまり苦しみに耐え忍ぶ世界)になります。

「涅槃」とか「成仏」「浄土」と言う仏教用語を聞けば、一般に死後の世界イメージを持つ方が多いでしょう。しかし、お釈迦様は死後の世界について説かれた訳ではありません。逆にならぬ弟子から「死んだらどうなりますか?」と質問された時に「不識(しらぬ)と答えていたとされています。死んだ後どうなるかよりも、今ここに生きていられる事を大切にしたいと言われたのだからと思えます。近頃、脳科学の発達と共に心療内科や精神科で薬に頼らない認知療法というのが定着しつつあるようです。今ある自己をキチンと認識する

として広がっています。この「マインドフルネス」は禅をベースにしています。一度、九大医学部心療内科の先生の研修を聞いたときに、これは坐禅と一緒にやらないかと思ひ、研修後、先生に直接聞いたところ、あっさり「そうですよ。ベースは禅です」と言われました。「マインドフルネス」は通常「気づき」と訳されます。自分が生きていく事、呼吸している事を気づく事が出発点だとされます。日常では、自分が呼吸している事など忘れていきます。どこかに悩みのない「彼岸」が、此処より外のどこかにあり、肉体の命が

事が出発点のようです。同様に、最近よく耳にする言葉で「マインドフルネス」というのがあります。最初は心療内科等で、一つの療法として始まったようですが、今は自己啓発の一つの方法

尽きるまでたどり着けないと考える事も一つの考え方でしようが、今の自分が生きていく事を大切にすることも重要だと思えます。前回は書きましたが「娑婆即涅槃」「涅槃即娑婆」と言われます。親が命をくれて(因)、家族、親族、仲間、多くの人のお陰(縁)で今ここに我々は生きています。ここには我々は生きています。感謝する機会、これがお彼岸の大切さだと私は思っています。

今ここにZEN

お寺は、法事や墓参りなどの慰霊の時だけ行くところと、思っている方が多いので、「それだけじゃないよ」とお寺の敷居を低くしたいと考えて始めた企画です。もう十年になります。

音楽の方は、私が最も敬愛するジャズベーシストの鈴木良雄さんが、毎回うちのために九州ツアーを組んで、色々なジャズプレイヤーと演奏してく



た高齢者バンドですが、情熱と円熟のバランスの取れた素敵な演奏でした。今回の演奏を終え、東京に帰り新し

れています。演奏前には、私が企画して、仏教に興味を持って頂けるような内容にしようとしてきました。昨年は、熊本県内にある曹洞宗寺院で一般対象の坐禅会を主宰している三人の僧侶で鼎談を行いました。「何故、近頃坐禅をした人が増えたのか」「我々の坐禅とマインドフルネスとの相違点を、どう捉えているのか」等々を語りました。日頃から、顔を合わせる事が多い仲間ですが、改めて自分の略歴を含め、人前で語り合う事により、お互いの考えを明確にする良い機会を頂きました。例えば「禅から宗教性を抜いたのがマインドフルネスだ」等の考え方です。

7時からの演奏は、何度も当山で演奏をしてもらっているBASS TALK。今回四度目になります。リーダーの鈴木さんが七十一歳、ピアノとフルートが還暦を過ぎた高年齢者バンドですが、情熱と円熟のバランスの取れた素敵な演奏でした。今回の演奏を終え、東京に帰り新し

定例木曜坐禅会

毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて

一炷(約四分)坐禅をして、仏教や禅の著述に関する話(約二十分)。今は「佛遺教経(八大人覺)」。会費会則一切なし、初めてのの方はご連絡下さい。

容になると思っています。一つの機会としてご参加ください。



平成三十一年 浄国寺予定

- 四月二十九日(月) 午後二時 松本喜三郎 墓前祭 喜三郎翁 追悼供養
- 七月三日(水) 午前十一時 谷汲観音供養 その他 施餓鬼会法要
- 十一月十六日(土) 午後六時 お盆壇信徒先祖総供養
- 「いま 心ZEN」 仏教講演会 併設企画「お寺でジャズ」 鈴木良雄&Bass Talk

身辺雑記

私も還暦を過ぎた。幼稚園長と任職、更に宗門や団体の役職と飛び回っているが、さすがに息切れがするようになった。どうか、息子が浄国寺九世を引き継ぐ気になったようで、現在、駒澤大学の仏教学部に通っている。大学を出たら数年間修行道場生活を送らなければならぬので、私ももう暫く身体を持たせねばならない。安請け合いのクセがあり、自分で自分の首を絞めている時があるので、自戒せねばならないところだ。私が園長を務めている高平幼稚園も昨年度より私立学校である幼稚園から、教育、福祉の両方の性質を持った認定こども園に移行した。文科省に厚労省が加わり担当するのは内閣府という複雑で奇妙な施設。少子化や女性労働力確保が目的のようだ。どう考えても、日本は経済的側面から見れば右の肩は下がる一方だ。そう言う意味では、今通っている園児の将来は暗い。しかし「豊かな心で生きる」ためには、お金だけが必要な訳ではない。道元禅師は「学道の人には貧なるべし」と言われた。お釈迦様の遺言(遺教経)では「少欲」「知足」「精進」等の八つの徳目を掲げられている。現代の脳科学を踏まえた教育理論では、そういう部分を育てる事を「非認知スキル」と呼ぶらしい。そう考えると仏教は非常に科学的な発想に基づき受け継がれている。現在、園では「遊び」を通じた非認知スキルの向上を課題として実践にあたりている。「園長がお坊さんで良かった」と言われるように。